



TITLE:

# ハナヤギウミヒドラモドキクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, ウミエラ ヒドラ科)の日本第二の記録

AUTHOR(S):

秋山, 仁; 山崎, 悠介; 久保田, 信

---

CITATION:

秋山, 仁 ...[et al]. ハナヤギウミヒドラモドキクラゲ(ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, ウミエラヒドラ科)の日本第二の記録. 日本生物地理学会会報 2013, 68: 113-115

ISSUE DATE:

2013-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180736>

RIGHT:

© 日本生物地理学会

Bull. biogeogr. Soc. Japan  
68, 113–115, Dec. 20, 2013日本生物地理学会会報  
第68巻平成25年12月20日ハナヤギウミヒドラモドキクラゲ  
(ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, ウミエラヒドラ科) の日本第二の記録秋山 仁<sup>1\*</sup>・山崎 悠介<sup>1</sup>・久保田 信<sup>2</sup><sup>1</sup> 〒858-0922 長崎県佐世保市鹿子前町 1055 西海国立公園 九十九島水族館<sup>2</sup> 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459  
京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所Second record of *Thecocardium quadratum*  
(Hydrozoa, Anthomedusae, Ptilocodiidae) in JapanHisashi Akiyama<sup>1\*</sup>, Yuusuke Yamasaki<sup>1</sup> and Shin Kubota<sup>2</sup><sup>1</sup> Saikai National Park Kujukushima Aquarium, 1055 Kashimae, Sasebo, Nagasaki, 858-0922 Japan<sup>2</sup> Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,  
Kyoto University, 459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

**Abstract.** A medusa of a rare hydrozoan species *Thecocardium quadratum* (Werner, 1965) (Hydrozoa, Anthomedusae, Ptilocodiidae) was collected as the second specimen of this species from Japan. It was compared morphologically with the other only one medusa specimen from Kuchinoerabu Island, Kagoshima Prefecture, Japan.

**Key words:** Hydromedusa, morphology, description, Japan.

## (要約)

ハナヤギウミヒドラモドキクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, ウミエラヒドラ科) のクラゲを長崎県平戸市沿岸から 2011 年 8 月に 1 個体採取したので写真撮影し, 形態を記載するとともに, 海からの野生個体として, 世界で初めて報告された鹿児島県口永良部島産の 1 個体と形態を比較した。

## はじめに

ハナヤギウミヒドラモドキクラゲ属 (Genus *Thecocardium*) のクラゲは, 現在までに 3 種が正式に報告されており (Bouillon *et al.*, 2007), 外傘上の正軸部に見られる溝, 外傘上の正軸部の溝に埋もれた 4 本の触手, 外傘上にある傘縁から求心的に伸びる数本の線状の刺胞塊を有する特徴がある。3 種のうち, ハナヤギウミヒドラ

モドキクラゲ *Thecocardium quadratum* を含む 2 種は未成熟なクラゲを遊離させるが, 他の 1 種の生殖体は真水母様体の子嚢であり, クラゲを遊離させることはない。ハナヤギウミヒドラモドキクラゲのポリプは, 過去にケニヤのモンバサからのみ報告されている (Werner, 1965, 1984; Jarms, 1987)。ハナヤギウミヒドラモドキクラゲのクラゲは, ポリプから遊離した未成熟クラゲを研究室において飼育した成熟個体が報告さ

\*連絡先 (Corresponding author): sps-1 @ poem.ocn.ne.jp

## ハナヤギウミヒドラモドキクラゲの日本第二の記録

れているが (Jarms, 1987), 海からの野生個体は, これまでに世界で鹿児島県の口永良部島沿岸の表層から 1 個体のみが記録されているだけの大変希少なヒドロクラゲであった (Kubota, 1993). 今回, 長崎県平戸市田平町田平港において日本で 2 個体目の野生個体で, 良く成長した個体が, 2011 年に採取されたので, このクラゲの形態を記載するとともに, 鹿児島県口永良部島産個体の形態と比較する.

### 材料と方法

今回確認された個体は, 2011 年 8 月 16 日に長崎県平戸市田平町田平港 (33°21'46"N; 129°34'38"E) で海面付近を浮遊しているところを熱帯魚用小型ネットですくいとった. 採取時にこの海域には多くの鉢クラゲ類, ヒドロクラゲ類, 有櫛動物が確認された. 採取直後に全体形などの写真撮影をおこない, 5% 塩化マンガン溶液で麻酔後, 5% 海水ホルマリンで固定した. そして固定した数日後に各部の詳細な観察をおこなった.

### 記 載

傘高 3.88mm, 傘径 4.10mm (図 1) のよく成長した個体で, 傘の頂点部分のゼリー層は厚かった. 4 本の触手は外傘上の正軸部にある溝の部分に埋もれていた (図 2). 線状の刺胞塊が傘縁周辺の隣り合う 2 触手間に 5~6 本, 総数で 22 本確認された (図 2). この線状の刺胞塊の長さは均一ではなく, これに続く外傘上の刺胞塊はわずか全部で数個のみしか確認されなかった. 口唇は十字形で, その正軸部に刺胞塊が確認された. オレンジ色の生殖巣は胃腔部間軸部に発達していたが (図 1), 雌雄の判別はできなかった.

世界で初めて記載された本種の野生個体は, 傘高 2.0mm, 傘径 1.9mm であり (Kubota, 1993), 本個体はそれよりも大型であった (表 1). 本



図 1. 長崎県平戸市産のハナヤギウミヒドラモドキクラゲ (生体写真, スケールは 1mm)

Fig. 1. *Thecocardium quadratum* from inshore waters at Hirado, Nagasaki Prefecture, Japan, photographed in a living state. Scale bar = 1mm.

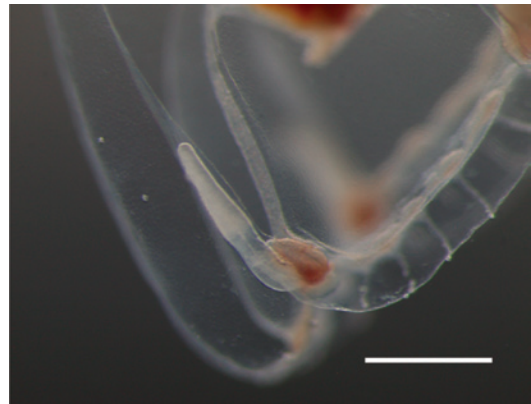


図 2. ハナヤギウミヒドラモドキクラゲの触手と線状の刺胞塊 (図 1 の拡大) (生体写真, スケールは 1mm)

Fig. 2. Enlarged view of the same specimen of Fig. 1, showing a marginal tentacle and linear spurs of nematocysts. Scale bar = 1mm.

個体の傘縁の線状刺胞塊の数は, 口永良部島産の個体の 23 本 (Kubota, 1993) よりわずかに 1 本少なかっただけだった. これに続く外傘上の刺胞塊の数は, 口永良部島の個体は総数が 127 個と報告されているが (Kubota, 1993), 長崎産の個体は, 刺胞塊数はごく少数であった (表 1). 長崎産の個体は口永良部島産のものの約 2 倍の大きさであったことから, 外傘上の刺胞塊数は成長に従い減少する可能性が示唆された.

久保田が南西諸島で実施した調査で, 口永

秋山 仁・山崎悠介・久保田 信

表 1.2 個体の日本産ハナヤギウミヒドラモドキクラゲの形態比較.

Table 1. Morphological comparison between two specimens of *Thecocardium quadratum* from Japan.

採取年	傘のサイズ (mm)		傘縁の線状の刺 胞塊の数 (本)	外傘上の刺胞塊 の数 (個)	文献
	傘高	傘径			
1991 年	2.00	1.90	23	127	Kubota, 1993
2011 年	3.88	4.10	22	少数	本研究

良部島においてのみ、ハナヤギウミヒドラモドキクラゲとともにクビレケリカークラゲ *Koellikerina constricta* が日本で初確認されているが (Kubota, 2006), 長崎県の佐世保市俵ヶ浦町俵ヶ浦でも、このクラゲが確認されていることから (久保田ほか, 2007; 秋山ほか, 2009), この俵ヶ浦と今回、ハナヤギウミヒドラモドキクラゲが確認された田平港を含む長崎県佐世保市の九十九島周辺海域には、南方からの暖流の流れ込みが生じていることが考えられる。

## 引用文献

- 秋山 仁・山崎悠介・河村真理子・久保田 信, 2009. わが国で確認された *Koellikerina constricta* (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, エダクラゲ科) のクラゲの大型個体. 日本生物地理学会誌, **64**: 101-103.
- Bouillon, J., Gravili, C., Pagès, F., Gili, J.-M. & Boero, F., 2007. An introduction to hydrozoa. Publ. Sci. Mus., Paris, 1-591.
- Jarms, G., 1987. *Thecocardium quadratum* (Werner 1965) redescribed, *T. penicillatum* sp. nov., and a method for rearing hydrozoans. In Bouillon, J., Boero, F., Cicogna, F. and Cornelius, P.F.S. (eds.), Modern trends in systematics, ecology and evolution of hydroids and hydromedusae, Oxford University Press, London, pp. 57-66.
- Kubota, S., 1993. The Medusa of *Thecocardium quadratum* (Werner) (Anthomedusae, Ptilocodiidae) from Southern Japan. Publ Seto Mar. Biol. Lab., **36**(1/2): 89-92.
- Kubota, S., 2006. Hydromedusan fauna of the Nansei Islands. Proceedings of 10th International Coral Reef Symposium, pp.197-201.
- 久保田信・河村真理子・秋山 仁・百武可奈子, 2007. わが国で2個体目の *Koellikerina constricta* (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目, エダクラゲ科) の記録. 長崎県生物学会誌, (**63**): 1-2.
- Werner, B., 1965. Lebensgeschichte und Ökologie tropischer hydroid und Scyphopolypen. Jahresbericht, Biologische Anstalt Helgoland. Ca10-Ca13.
- Werner, B., 1984. Stamm Cnidaria, Nesseltiere, in KAESTNER V. A. (ed.), Lehrbuch der speziellen Zoologie, 1 (2). Cnidaria, Ctenophora, Mesozoa, Plathelminthes, Nemertini, Entoprocta, Nematelminthes, Priapulida. G. Fischer, Stuttgart, 305 pp.
- (2013 年 9 月 17 日受領, 2013 年 10 月 17 日受理)